



国立大学法人
和歌山大学



和歌山大学南紀熊野サテライト2012年度 事業総括書

2013年3月

和歌山大学地域創造支援機構 地域連携・生涯学習センター

南紀熊野サテライト

はじめに

＜地域課題と寄り添い、南紀熊野地域での学生や教員の研究教育活動を、学内外へ発信した年＞

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年の4月に地域型サテライトとして設置されてから8年目を迎えた。2012年度の取り組みでは、台風12号に伴う紀伊半島豪雨災害への対応や、大学内の研究プロジェクトである「地域を支え地域に支えられる大学づくりプロジェクト」（独創的研究支援プロジェクト）などへの課題提案や研究チームの教員と連携した地域での調査研究の支援。大学内教育改革プロジェクトでの学生の地域演習や研究の支援やグリーンイノベーション創造プログラムへの参画など、地域拠点のサテライトとして、学生や教職員への地域情報の提供や、地域の様々な課題を取り上げた講座や授業の開催が実現した年。学内外の双方向に学び合える機会を数多く企画提案し、発信した年となった。本報告書において2012年度事業について総括してみたい。

＜2012年度事業の特長・課題＞

2012年度の南紀熊野サテライト事業の特長・課題を、箇条書きにまとめたい。

※特長・課題とも絞り込むため5つに絞っている。

【5つの特長】

①学生教員の教育・演習・研究活動を支援するサテライト

→現物教育プロジェクト（古座川町、串本町での学生の現地調査）の支援などを行い、地元のキーパーソンとのコーディネートや地域報告会実施。サイエンスカフェや各種講座など、大学内各センター（宇宙教育研究所、紀州経済史文化史研究所、保健管理センター、地域連携・生涯学習センター）との地域連携事業を実施した。

②大学研究と地域課題をクロスさせた「地域学」構築への貢献

→独創的研究支援プロジェクト「生活交通」（田辺・白浜・新宮・有田川・和歌山市）、「ジオツーリズム」（南紀熊野全域）など研究会へ参画して、学内教員と地域とのコーディネートや研究会運営、現場統括を実施した。（※2013年度より、地域学に根差した編成の学部開放授業「紀州郷土学」、「地域暮らしの安全学」を実施）

③台風12号災害対策本部分室としての活動

→「災害対策研究支援調査事業」の研究協力と、学生団体「FORWARD」による「災害後の復興の現状について」の聞き取り調査について、現地支援を実施した。

④自治体・教育委員会・地域との連携協働の推進

→自治体の社会教育・生涯学習事業（田辺市まちづくり市民カレッジ、県教委繋ぎ人事業の共催化）などの地域づくり・人づくり事業に参画して、地域と大学の橋渡し役を行った。

⑤広報戦略の拡充 ⇒【掲載新聞、広報紙参照】

→学生制作広報紙（南紀熊野特集）取材の現地支援。ユーストリーム配信の教職員紹介番組に出演。各種新聞やラジオ等のメディアへの情報提供。地域での研究報告活動などを学内外へ情報発信して相互理解を深めている。

【残されている5つの課題】

- ①地域連携を通じた研究・教育活動による地域の発展モデル構築と更なる推進。
- ②サテライトを通じたフィールド（地域）における学生教育・研究支援体制の構築。
- ③地域学に根ざした大学院授業編成とあり方の検討。
- ④サテライトを活用した高大連携の推進。
- ⑤サテライトの広報戦略を実施。（メディア連携、紙媒体、デジタル媒体、口コミ等）

2012年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果となった。これらは、オフィススタッフだけでは達成されるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、学内の皆様、関係者の皆様の支えがあって実施されたものである。皆様に厚く御礼を申し上げます。

和歌山大学南紀熊野サテライト

【1】 高等教育部門／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

学院受講者6科目延べ34名（修士課程含む）、学部受講者4科目延べ51名（高校連携含む）、合計85名
研究指導2名、修士論文執筆を経て修士課程を修了。

《平成24年度南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧》

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士課程	高校生	
大学院	前期	環境・自然エネルギー革命	中村	経済学部	5	2	/	7
		観光ホスピタリティ	竹田	観光学部	3	0		3
		地域と教育・発達支援	松岡、他3名	教育学部	4	1		5
	後期	住民自治と地域社会	中島	経済学部	7	2		9
		紀伊半島学Ⅱ	本多、他7名	システム工学部	5	1		6
		着地型観光と地域振興	出口、竹林	観光学部	3	1		4
					合計			34

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
学部	前期	災害と復興を考える	大泉、他5名	経済学部	14	0	0	14
		デザイン情報学入門	吉野、他2名	システム工学部	14	0	0	14
	後期	エコツーリズム論	出口、竹林	観光学部	5	0	1	6
		万葉集にみる古代交通	長谷	教育学部	16	0	1	17
					合計			51

総合計	85
-----	----



大学院授業の様子（定員10名）



学部開放授業の様子（定員30名）

- ①大学院科目、学部科目で、現地フィールドワークを織り交ぜた授業を実施。
- ②学部開放授業の観光系の科目では、先進地の実践者や観光カリスマなどが登壇するなど、実践的な学びを提供。
和歌山大学観光学部学生と地域住民、地域の高校生が同じ教室で授業を受ける機会も実施。



野外での実習（微動感知装置の実験風景）



山田桂一郎客員教授による授業風景

- ③南紀熊野サテライト大学院進学相談会を実施。
- ④南紀熊野地域の諸課題に対応する地域ニーズの高い内容について、大学内「教養の森改革」に準じて学部開放科目を総合的な学びの機会として編成。「紀州郷土学」「地域暮らしの安全学」を設置。（※H25年度前期募集は、地域住民の共感を得て、学部開放授業の受講希望者数が増加。）

1-2 主催講座・発表会関係

金環日食を安全に観察するための講演会を、和歌山大学宇宙教育研究所と連携して東牟婁、西牟婁地域にて開催。また、学内研究会の成果報告としてジオツーリズムシンポジウムを田辺市にて開催。南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座を「今こそ“エコツーリズム”」、「紀州郷土学-紀伊半島の恵みと災害-」&受講生募集説明会として春と秋に開催。3月には、修士論文発表会、記念講演を実施。

①金環日食関連の講演会「直前対策講座5/21早朝、金環日食を見よう！」

和歌山県で28年ぶりに観察可能な、「金環日食」の安全な観察の方法を、学内宇宙教育研究所と連携して西牟婁地域、東牟婁地域の2箇所にて同内容の講演会実施。西牟婁会場では、日本宇宙少年団みなべ梅の里分団の小学生と「尾久土先生への質問コーナー」等題して参加者との交流機会も実施。東牟婁会場では、同日に串本町大島にて「宇宙カフェ」を実施。

◇西牟婁会場の開催内容

開催日：平成24年5月5日（土、祝）13:30～15:00 参加550名（過去最高数）

会場：和歌山県情報交流センターBig.u多目的ホール（田辺市）

講演者：尾久土正己 和歌山大学観光学部教授

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、和歌山大学宇宙教育研究所 後援：田辺市教育委員会

◇東牟婁会場の開催内容

開催日：平成24年5月13日（日）13:30～15:00 参加150名

会場：串本町文化センター大ホール（串本町）

講演者：吉住千亜紀 和歌山大学宇宙教育研究所

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、和歌山大学宇宙教育研究所 後援：南紀金環日食実行委員会
串本観光協会、串本町、串本町教育委員会、串本町商工会

②ジオツーリズムシンポジウム「和歌山ジオツーリズム元年 -地球を感じる新しい観光-」

日時：平成24年12月20日（木）（Big・U研修室1） 参加100名

内容：和歌山大学独創的研究支援プロジェクト「和歌山県におけるジオツーリズム自然教育価値創造事業」事業報告会と意見交流を目的に、シンポジウムを開催。和歌山県における潜在的な資源を活用するため地域理解を促進し、地域での新たな広域連携の機会として提案。

- ・研究事業報告「和歌山県の自然遺産と活用について」久富邦彦 和歌山大学教育学部教授
- ・基調講演「ジオ&エコツーリズムを活かした地域振興の可能性」山田桂一郎氏（JTICSWISS代表/内閣府 国土交通省・農林水産省認定「観光カリスマ」/和歌山大学 産学連携・研究支援センター客員教授）
- ・観光学部学生のポスターセッション 出口竜也教授・竹林浩志准教授・中串准教授・観光学部学生
- ・パネルディスカッション、事例紹介テーマ「日本のジオツーリズムの可能性とこれから」パネリスト4名
 - 山田桂一郎氏「エコ&サステナブルリゾート：スイス・ツェルマット」（JTICSWISS代表/内閣府 国土交通省・農林水産省認定「観光カリスマ」/和歌山大学 産学連携・研究支援センター客員教授）
 - 松原典孝氏「山陰海岸ジオパークでのジオ活例」（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所特任助教/山陰海岸ジオパーク推進協議会研究員）
 - 多田稔子氏「世界遺産と持続可能な観光」（田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長）
 - 中串孝志「科学コミュニケーションの重要性」（和歌山大学観光学部 准教授）
- ・ゲストと語る「ジオカフェ」も同時開催。参加20名



パネルディスカッションの様子



山田桂一郎客員教授の講演

③南紀熊野サテライト連携協議会後期公開講座「今こそ“エコツーリズム”」&受講生募集説明会

日時：平成24年9月9日（日）10:00～12:00（Big・U研修室4）参加30名

内容：平成24年度後期南紀熊野サテライト受講生募集説明会

記念講演「エコツーリズムの考え方・活かし方-宝探しから持続可能な地域づくりへ」

講演者：高梨洋一郎 日本エコツーリズム協会理事・元トラベルジャーナル編集長

後期学部授業「エコツーリズム論」概要紹介 出口竜也観光学部教授

④南紀熊野サテライト連携協議会前期公開講座「紀州郷土学」-紀伊半島の恵みと災害-&受講生募集説明会

日時：平成24年2月16日 14:00～15:45（Big・U研修室4）参加24名

内容：平成25年度前期南紀熊野サテライト受講生募集説明会

記念講演「紀州郷土学」-紀伊半島の恵みと災害-

講演者：此松昌彦 和歌山大学教育学部教授・防災研究教育センター長

前期学部授業「紀州郷土学」の概要紹介 此松昌彦教育学部教授、授業編成変更の説明 古久保
主催：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会

⑤和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文発表会、講演会

日時：平成25年3月23日（土）13：30～16：15（Big・U研修室4）参加28名

内容：修士論文発表2名、担当教員講評

発表者：堀江重太氏「レンタル事業による循環型産業への転換」

滝川泰彦氏「中山間地農業の再生と自立」

担当教員講評：大泉英次 経済学部教授 大西敏夫 経済学部教授

記念講演「家庭用品産業のまち海南の今昔ー産地の変化を考えるー」

講演者：藤田和史 和歌山大学経済学部講師



藤田先生の記念講演の様子



修士論文発表風景

1-3 サイエンスカフェ関係

幅広い年代に参加していただける「サイエンスカフェ」を実施。講演会スタイルではなく、専門家による話題提供の後に、お茶を飲みながら参加者と専門家が自由に語る場として、新しい形での学びの企画となった。

理系：宇宙カフェ（串本町）、ジオカフェ（田辺市）、出張ジオカフェ（和歌山市）

- ①「宇宙カフェ@南紀熊野」（串本町）平成24年5月20日（日）19：30～21：00 参加20名
会場：串本町檜野リゾート大島レストラン 講師：吉住千亜紀 和歌山大学宇宙教育研究所
主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、宇宙教育研究所 後援：南紀金環日食実行委員会リゾート大島
内容：天文現象に関心を持つ市民と宇宙関連の研究者が、飲み物を片手に気軽に宇宙について語り合える宇宙カフェを実施。金環日食の前夜に日食の仕組みや皆既日食との違い、海外での日食も紹介された。
- ②「出張ジオカフェ」平成24年11月8日（木）18：30～20：00 参加20名
会場：和歌山大学まちかどサテライト（和歌山市）
演題「和歌山をジオツーリズムで活性化するために」中串孝志 和歌山大学観光学部地域再生学科准教授
内容：ジオとは何か？地球活動を楽しむジオサイトの活用について話題提供。和歌山県でのジオサイトの取り組みについて参加者と語り合った。
- ③「ジオカフェ」平成24年12月8日（土）18：30～20：00（Big・U研修室3）参加20名
演題「和歌山をジオツーリズムで活性化するために」此松昌彦 和歌山大学教育学部理科教育教授
内容：和歌山県の自然遺産を紹介。「感動」が共感に繋がるというテーマ設定で、参加者と地域にあるジオサイトについて語り合った。

文系：歴史カフェ、漱石カフェ、落語カフェ（田辺市）

- ①「歴史カフェ」平成24年9月29日（土）17:30～19:00（Big・U研修室3）参加20名
演題「移民の歴史」観光学部 東悦子先生 観光学部学生10名も当日運営に協力。
- ②「漱石カフェ」平成25年3月16日（土）17:30～19:00（Big・U研修室3）参加16名
ゲスト講師 恩田雅和 天満天神繁昌亭支配人、夏目漱石の最近の研究と和歌山県との関連を話題提供。
- ③「落語カフェ」平成25年3月30日（土）17:30～19:00（Big・U研修室3）参加16名
ゲスト講師 恩田雅和 天満天神繁昌亭支配人、上方落語の構成や、落語家の逸話を紹介。
小学2年生（8歳）～地域住民（88歳）が参加。幅広い年代層が語り合う場となった。



歴史カフェの様子



落語カフェの様子

1-4 大学同窓会組織との連携

- ①「田辺周辺・和歌山大学四学部同窓生の集い」

日時：平成24年10月14日（日）（Big・U研修室2）参加50名

内容：経済学部、教育学部を中心とする田辺周辺地域在住の和歌山大学同窓生の集いを開催。

出身学部を越えた交流と繋がりづくりを目指して初めての実施。同窓会連携の窓口として、実行委員会に参画。

山本健慈学長、石橋貞男学長補佐（同窓会・基金担当）、青柳明雄学長室付特任教授が参加。記念講演として、「和歌山をジオツーリズムで活性化するために」和歌山大学観光学部 中串孝志観光学部准教授が講演。

記念講演後に、参加者全員での記念撮影や、懇親会も開催して交友を深めた。

- ②同窓会として、サテライトの人的基盤強化（現職の任期付コーディネーター継続雇用）に対する署名を学長へ申し入れ。同窓会署名数は105名、その後、学長と同窓会有志との懇談会も実施された。



田辺周辺・和歌山大学四学部同窓の集いの様子



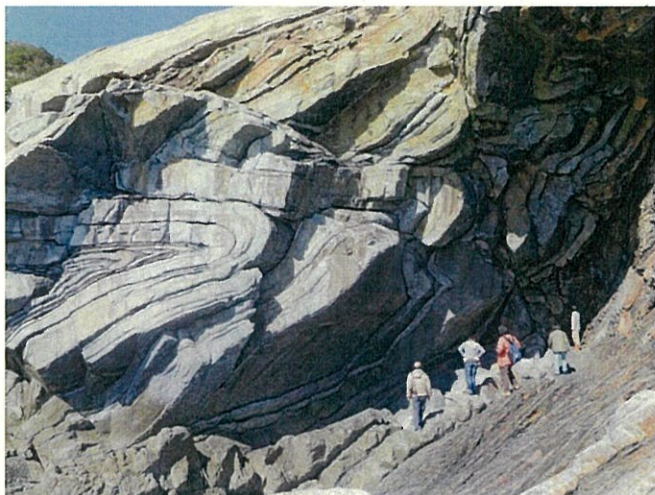
懇親会の様子

【2】地域研究・生涯学習部門

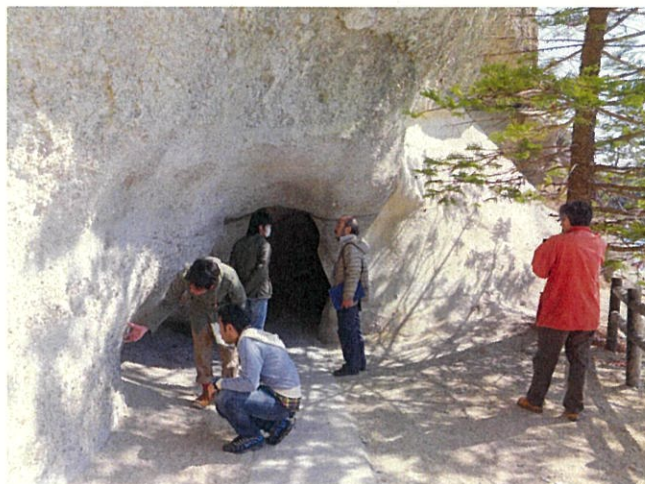
2-1 地域研究関係

和歌山大学 独創的研究支援プロジェクト「地域を支え地域に支えられる大学づくりプロジェクト（旧地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト事業）」での地域ニーズの把握と、学内教員と連携するコーディネートを実施。南紀熊野地域での地域研究に繋げた。

- ①「和歌山県におけるジオツーリズム自然教育価値創造事業」での現地調査（白崎海岸～新宮地域）や県外視察を実施。県内の貴重な自然遺産を教育と観光への利活用する提案と可能性検証を実施支援。同時に研究会では和歌山県で進められている「南紀熊野ジオパーク構想」の学術部会や協議会に参加。研究協力等を継続実施。



県内の自然遺産の巡検の様子（すさみ町）



円月島付近の調査（白浜町）

- ②「民産官学による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト事業」のフォローアップ。白浜町生活交通ネットワークのアクションプランサポート。
- ③「JRきのくに線津波から命を守るためのプロジェクト」企画提案&コーディネート。サテライトからJR西日本和歌山支社、和歌山県教育委員会（東牟婁教育支援事務所）をコーディネートして、「高校生が実践参画する津波対処訓練」を実現。訓練は平成25年3月9日（土）串本～新宮間で実施。参加者約150名。
- ④平成24年度日本社会教育学会において「大学と地域をつなぐコーディネーターの役割と専門性に関する研究」の発表。地域連携・生涯学習センター紀要年報において論文執筆。「大学と地域を繋ぐコーディネーターのミッションとその専門性に関する一考察—和歌山大学地域連携コーディネーターを事例にして—」



実際の列車を使って避難訓練する高校生・参加者

2-2 生涯学習関係／講座・セミナー

- ①地域課題解決プロジェクト支援事業（県教委―地域連携・生涯学習センターの連携事業）西牟婁・日高地域の研修会への参画。
- ②平成24年度マナビスト支援セミナー企画ゼミ紀南の部「防災」の後方支援。受講生の学びをサポート。
- ③地域生涯学習事業開発プロジェクト参画／第11回地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー（主催：地域連携・生涯学習センター）
- ④第34回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会への参加（熊本大学）
- ⑤田辺市生涯学習推進計画（田辺市教育委員会・旧生涯学習教育研究センター）に基づく田辺市まちづくり市民カレッジ企画委員・企画協力（全7回の企画運営参画）、後期基本計画策定に関するシンポジウム（17箇所）社会教育委員会議等への参画。
- ⑥和歌山県社会教育委員会議への参画。

2-3 学内事業との連携

- ①防災・日本再生シンポジウム「紀伊半島大水害の経験を踏まえ、これからの地域防災を考える～地域と大学の協働による東南海・南海地震対策～」平成24年12月2日（日）後方・広報支援。参加者約70名
- ②留学生対象学部科目「JAPAN STUDY II」南紀熊野エクスカーションツアー（熊野本宮大社・秋津野ガルテン・南方熊楠顕彰館など）の企画と支援。現地コーディネート。
日程：平成25年2月22日（金）～23日（土）1泊2日 参加13名
- ③平成24年度社会教育主事講習（文部科学省／地域連携・生涯学習センター）への講師登壇。



熊野古道と熊野本宮大社を訪問する留学生

2-4 本学授業や学生との連携・支援

学生の南紀熊野地域でのフィールドワークや各種企画の相談や現地調整。教員の地域研究教育の支援。

- ①保健管理センター、学生グループと連携して南紀熊野での研修実施協力「多文化共生を学ぶ南紀熊野研修」
内容：天神崎（田辺市）、南方熊楠記念館（白浜町）、くじらの博物館（太地町）、トルコ記念館（串本町）等
広域で関係者から聞き取りを行い、多文化共生と動物介在療法の検証等の研修の現地支援を実施。
平成24年8月16日（木）～8月17日（金）1泊2日 参加22名



トルコ記念館に訪問した学生（串本町）



くじらの博物館での聞き取り（太地町）



天神崎に訪問する学生（田辺市）



南方熊楠記念館での聞き取り（白浜町）

②教育支援機構採択事業の協力「現物教育プロジェクト」での学生企画の演習や研究の現地支援を実施。

- ・古座川町の高池下部にある神戸神社の例祭「火焚祭」での獅子舞の伝承資料作りに関する聞き取り調査と記録映像の撮影演習が実施された。

平成24年11月17日（土）～11月18日（日）1泊2日 参加15名

内容：火焚祭と伝統の古座獅子の伝承について住民から聞き取り（社会科ゼミ学生「祭礼研究会」と、後世への文化保存のために資料（伝承用、観光用）撮影を実施（自主演習クリエの学生「映像チーム」）の現地支援。

- ・旧古座町での原発誘致反対活動の背景と地域の産業について聞き取り調査。

平成24年10月13日（土）～10月14日（日）1泊2日 参加20名（教育学部社会科ゼミ）

内容：当時の活動の関係者の方より活動の背景と当時の様子と地域産業について聞き取り調査を実施。原発の建設予定地だった海岸を見学。第五福竜丸についても聞き取りを行い原子力を取り巻く地域の教育素材として着目した。その調査結果を報告書に纏めた。

- ・その他、観光学部の学生企画による「ジオツーリズム研究」や、システム工学部の学生企画の「北海道大学和歌山研究林を活用した演習の取り組み」などが採択されて、東牟婁地域で実施された。

ジオツーリズム研究では、モニターツアーの結果をポスターセッションなどで地域報告が実施された。



古座原発反対活動の背景と地域産業について聞き取り調査（教育学部社会科ゼミの学生）



火焚祭、古座獅子伝承について保存資料撮影（自主演習クリエ「映像チーム」）・聞き取り調査（社会科ゼミ学生「祭礼同好会」）

2-5 学内事業との連携

- ① 特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催をサポート（和大本学→Big.u通信）今年度、5回実施。
- ② 「わかやま学講座」（高等教育機関コンソーシアム和歌山）企画提案事業南紀熊野地域説明会／審査会実施。

2-6 展示関係

① 「移民展に関する企画展・パネル展」

和歌山大学紀州経済史文化史研究所と連携して田辺市2拠点でパネル展を実施。

移民の船上生活や当時の旅費などの資料、渡航先の生活の写真やポスター資料を交えたパネルの展示に協力。

- ・ 和歌山県情報交流センタービックユー 日時：平成24年9月29日（土）～9月30日（日）
- ・ 田辺市文化交流センターたなべる 日時：平成24年10月2日（火）～10月8日（月・祝）



田辺市文化交流センターたなべるの展示の様子



和歌山県情報交流センタービックユーでの展示

2-7 大学広報・情報提供関係

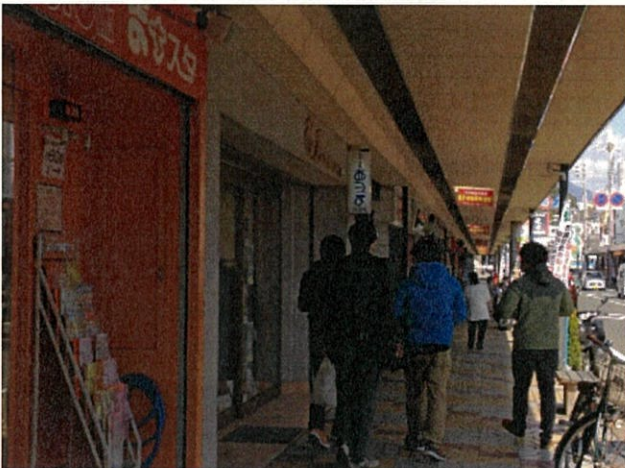
- ①入学者選抜要項・教員免許状更新講習などの案内冊子の提供や相談対応。
- ②ユーストリームを活用した、和歌山大学の学生教職員紹介番組「ワタナベの部屋」（高校生、在学生向け番組）に出演して、和歌山大学の地域連携コーディネーターの職務内容を視聴者に紹介。
- ③本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施。
広報室学生チーム PRism 編集のフリーペーパー「プリズム」の取材協力。平成24年12月3日（月）南紀熊野特集として、学生目線での魅力や現地のキーパーソンへのインタビュー、南紀熊野地域での学生活動が記事で掲載された。学内広報紙「アヴニール」の南紀熊野取材も現地支援を実施。西牟婁地域、東牟婁地域の商店街、農家の方などに和歌山大学の印象と、今後に望むことについての聞き取りを実施。
- ④地域連携・生涯学習センター編集の「生涯学習ニュース」に、南紀熊野サテライトコーナー（サテライト通信）を引き続き情報掲載。



広報紙の南紀熊野特集取材風景



発行された広報紙「プリズム」南紀熊野特集



「アヴニール」取材風景：田辺市の商店街を聞き取りする広報学生



ユーストリーム「ワタナベの部屋」収録風景

【3】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談

3-1 大学との地域の連携・協働推進

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②田辺市東部小学校保護者懇談会の進行、コーディネート役。
- ③和歌山県企業立地課からの相談対応。
- ④ワダイオリジナルブランド梅酒の開発（翌年度）。
- ⑤中野BC&梅酒研究所の「二十歳になる女の子に贈りたい梅酒」の開発。

⑥南紀熊野ジオパーク連携協議会関連への協力。



南紀熊野ジオパーク設立総会にオブザーブ参加



平成25年2月6日(水)(串本町 県水産試験場)

- ・南紀熊野ジオパーク構想地域ジオツアー(モニターツアー)の現地支援と広報協力。
名称:南紀熊野ジオパーク構想地域ジオツアー「和歌山大学生と南紀熊野のジオツーリズムを考えよう」
日時:平成25年3月1日(金)~3月2日(土) 参加30名程
場所:南紀熊野ジオパーク構想地域の内一部エリアを視察(串本町・古座川町のエリア)
出席者:和歌山大学生、南紀熊野ジオパーク推進協議会学術専門委員会、協議会関係者
主催:和歌山県、協力:南紀熊野ジオパーク推進協議会、和歌山大学
資料:新聞掲載2点、(朝日新聞3月2日付、紀伊民報3月5日付)テレビ中継(和歌山放送)



和大学生と行く南紀熊野ジオパークモデルツアー(古座川町)



ジオをテーマにしたグループワークの様子(串本町)

3-2きのくに活性化センター/旧田辺市町村広域圏健康・観光産業クラスター推進協議会との連携

- ①きのくに活性化センター10周年記念式典及び祝賀会の実施に協力。

日時:平成24年4月21日(土)13:00-16:00 会場:紀南文化会館 小ホール

- ②きのくに活性化センター企画運営委員会への参画。

- ③きのくに活性化センター事業「廃校舎の利活用と地域再生」事業への参画。

- ④旧クラスター推進協議会関連事業“熊野”癒し・怪し・蘇りの地、活用事業への協力。

- ・田辺市内天神児童館にて妖怪講座、児童館の小学生を対象に自然環境や民話の伝承について講座開催。

日時:平成24年7月26日(木)9:30-17:00(天神児童館)参加25名

- ・語り部&妖怪と歩く田辺市街地まち歩き、県外の参加者等と市内を周り史跡等を学ぶ機会として実施。

日時:平成24年11月3日(土・祝)14:30-15:30(田辺市街地)参加10名



児童館で妖怪講座を実施



語り部、妖怪と歩くまち歩き実施

3-3 大学と地域の連携・協働推進

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②秋津野地域づくり学校（株式会社農業法人秋津野）の運営委員として参画。

3-4 大学間連携

- ①「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

地域型大学サテライト拠点を持つ他大学や地域連携担当者との情報交換の場として実施。地域型サテライト拠点の発展に目的に開催された。16国立大学・4公立大学・25私立大学をはじめとした47大学、51機関が出席。和歌山大学の3つのサテライトの活動事例を「地域を支える『第三領域』人材の育成に向けて」登壇、及び実施報告書の作成。セミナーの企画運営を実施。

日時：平成24年7月5日（木）～6日（金）参加100名

会場：和歌山大学地域連携・生涯学習センターにて開催。（和歌山市）※セミナーは本学事業



セミナー開催の様子（和歌山市）

- ②他大学との合同調査ゼミの現地支援。（明治学院大学経済学部生、和歌山大学システム工学部生）

日時：平成24年11月10日（土）～11日（日）（秋津野ガルテン～龍神村）2泊3日 参加20名

和歌山大学システム工学部原先生のゼミ生と、明治学院大学経済学部半澤先生のゼミ生が、都市計画というテーマで、東京都六本木やお台場などでの土地開発の事例や、和歌山県の過疎高齢の進む農村地域での計画モデルの調査を行い、経済と環境の視点で互いの調査について意見交換。この調査の現地支援を実施。



田辺市秋津野ガルテン、龍神村での現地調査支援（明治学院大学、和歌山大学の合同調査ゼミの様子）

③南海フェリー&和歌山大学&四国大学の連携企画に協力。開催日：平成24年9月12日（火）

南海フェリーの呼びかけで、和歌山大学広報室と四国大学が連携して、船上にて両大学の活動報告を実施。乗船客に発信した。この連携企画の講師役としてミニ講演「南紀熊野の魅力と和大的活動について」に登壇。



連携企画で乗船した南海フェリー



南海フェリーの企画広報物

【4】台風12号対策（本学対策本部分室の活動）

4-1 台風12号対策（本学対策本部分室の活動）

- ①防災研究教育センターにおける台風12号災害発生後の孤立集落に関する研究（照本先生）において、新宮市那智勝浦復興対策についてのヒアリング調査に同行。
- ②学生ボランティア団体「FORWARD」と紀伊民報と連携した「台風12号災害1年後の課題アンケート」を実施。41名への訪問インタビューの実施支援。平成24年8月29日（水）～31日（金）
- ③地域連携・生涯学習センター紀要年報第11号に「台風12号における災害ボランティアセンターの取り組みとあり方」論文（共著）執筆。
- ④日本社会教育学会関西6月集会において「台風災害と地域・大学連携と役割」の題で、本学の災害支援の取り組みを報告。平成24年6月23日（土）
- ⑤独創的研究支援プロジェクト・地域の特質を生かした防災型「地域イノベーション」創造プログラム「紀伊半島における災害対応力の強化—想定を越える災害への備え—」に地域連携担当として参画。
- ⑥東日本大震災被災地への継続視察とヒアリングとして東北へ。鉄道の被害、復旧状況、震災1年後の仮設住宅生活課題について現地で調査。平成24年8月2日（木）～5日（日）

【5】運営／地域課題解決に向けて

5-1 南紀熊野サテライト運営強化に向けて

地域連携コーディネーター新任人事の決定。(酒井豊コーディネーター)

5-2 南紀熊野サテライト視察の受け入れ

①デンマークコペンハーゲン商学院 視察日：平成24年7月25日(水)

サテライト運営についてヒアリング受入。(李先生紹介)

②韓国公州大学 視察日：平成24年11月2日(金)

日本の社会教育の現状、学校と地域の連携、大学と地域の連携についてヒアリング受入。(学長、村田先生紹介)

③京都南丹市地域市民活動グループ 視察日：平成25年3月6日(水)

地域の市民活動団体の現状、大学と市民活動団体の連携についてヒアリング受入。(龍谷大学・深尾先生紹介)

5-3 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

①オフィス会議、サテライト連絡会議、センター企画運営委員会、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議などの会議事務局などを担当。

②和歌山大学の全学の最前線拠点・情報拠点として大学案内・入試案内・各種の情報提供を地域で行うと共に、南紀熊野地域の知の拠点として、事業の参画・連携、情報発信等の活動を実施。

⇒今後も、「地域を支え地域に支えられる大学」の実践に向けて、様々な取り組みを実施いたします。

以上